

1 審議会名	武石地域協議会
2 日時	令和3年7月21日 午後7時00分から午後8時30分まで
3 会場	武石地域総合センター3階 大会議室
4 出席者	池内俊郎会長、金子るり子副会長、岡村正徳委員、金井修一委員、金井律子委員、清住奈美枝委員、小林明美委員、小山ひろえ委員、桜井敏雄委員、城下昌史委員、橋詰正江委員、【欠席委員9名】
5 市側出席者	下村地域自治センター長、滝沢地域振興課長、樋口教育事務所長、小山市民サービス課長、佐藤産業建設課長、杉浦丸子・武石上下水道課長、若木地域政策担当係長、鈴木地域担当職員、増田地域政策担当
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和3年7月29日
協 議 事 項 等	

1 開会 (金子副会長)
2 あいさつ (池内会長)
3 報告・協議事項
(1) 武石公民館図書室及び学習室の運用について
(会長) 武石で19日にサテライト市長室が開催され、PTA、住みよい武石をつくる会会長と地域協議会から3名の計4名が出席し、上田市長へ意見書を提出したと報告。
市長からは1番目と3番の図書館のあり方について、「方向性と今後の組織体制について、長期的に見ていく必要がある。別途、協議をする場もしくは組織を作って、検討していきたい」と話があり、また開館時間の変更・拡張については早急に方向性を出して回答したいと話があった。
委員からの意見、質問なし
(2) 岳の湯温泉 雲溪荘のあり方について (産業建設課長説明)
【質疑等】
(会長) 産業建設課から地域内のアンケート調査の進捗について産業建設課から説明をお願いしたい。
(事務局) 自治センターだより5月16日号で周知。 7月2日にアンケート(地域内18歳以上の方をランダムに抽出1,050通)を発送。 回収日は7月15日(木)とし、現在、届いた回答の集計作業をしている。 8月中に分析をし、9月か10月の協議会で結果報告をしたい
(会長) 1,050通(約1世帯に1通)発送ということだが、年代別に分けて発送したのか。
(事務局) 年代は、18歳～29歳、30歳代、40歳代と均等になるように抽出した。
(会長) 回収率は。
(事務局) 回収は3割程度と思われるが、集計中のため現時点では、把握できない。

- (委員) エリアトークで催促のお知らせをしてはどうか。
- (会長) 締め切り日は過ぎてはいるが持ってくれば、受け付けるのか。
- (事務局) 受け付ける。
- (会長) 未回答があったら、回答するよう促しても良いか。
- (事務局) 提案がありましたように催促する方法を検討する。
- (会長) 分かりました。
9月もしくは10月の地域協議会で結果の報告をお願いしたい。

(3) 武石診療所のあり方について（市民サービス課長説明）

- (事務局) ●答申書の構成案
- ・武石診療所の状況
 - ・武石診療所の課題
 - ・ニーズ（アンケート調査から）
 - ・武石診療所のあり方・方向性
- 武石診療所の将来イメージ案
- ・現状と方向性（将来像）
- 答申書（素案）
- 以上について説明。

【質疑等】

- (会長) 従来の説明内容を再度整備していただいたものが素案の中の前半部分 1 から 4 までになる。
ポイントは最後にある 5 番目の武石診療所のあり方・方向性だと思う。
アンケートの結果は、「現在の診療所の体制を維持してほしい」が 63%と多くの住民は今まで通りの診療所のあり方を維持してほしいと思っている。
現状を維持していくにはどのようにしたら良いかという視点で考えていかなければならない。
あり方・方向性の内容で質問等あれば出していただきたい。

(5) 市民協働の後半部分「診療案内や交通手段の確保、調剤配達など、住民の皆さんの力をお借りしながら」とあるが具体的にはどのようなイメージか。

- (事務局) イメージとすると、診療所の応援団のようなものがあり、診療所案内や近所の方が車で診療所まで送迎をしてもらうとか、調剤業務や配達についても、院外処方については近くの薬局に行って届けてもらう。可能かどうかは別として、診療所運営としてできればと考える。理想的な具体的にどのようなになるかというある程度イメージした将来像として出した。

- (会長) ポイントは依田窪病院との連携であると考えている。単独での維持は難しく、依田窪病院の分院として先生方もローテーションで入ってくる、カルテや設備を使っていく、調剤等も薬剤師も進めていく。依田窪病院の分院という生き方もある。

(7) 市の役割として具体的な関りは予算の確保といった財政的な支援ということか。

(事務局) そのとおり。基本的な方針としてこれまでのプライマリケアを大切にした医療、診療所を維持していきたい。そこについては財政的支援もあるが、地域医療、在宅医療を構築するような施策をしていていただきたい。

(委員) (3) 連携・統合・再編の中で、どういう方向にもっていくかで施設の老朽化に対応する部分が変わってくると思われる。方向性というのはこれから決めていくということか。

(事務局) 今すぐ依田窪病院と統合ということではなく、人の問題、お金の問題が出てくるので、加味しながら行く行くは人の確保が大切であり、医師がいなければ診療所が運営できない。できれば依田窪病院と統合して医師の確保が必要なのではないかと考える。

(会長) アンケートでどこの医療機関を使っているかという問に対し、依田窪病院・丸子中央病院と大きくはこの2院。地域的つながり、距離的な問題、従来の関わり方とかからいえば一番身近にある依田窪病院だが、使用としては丸子の方が多いが、私立病院だからか。

(事務局) それもあるが、依田窪病院は在宅医療を充実させたいというところでニーズになったと考える。丸子中央は病院の方に連れてくるという方針なので、在宅医療を充実させたいといった依田窪病院とそういったところで在宅医療と訪問看護をやっているのがニーズになっている。

(委員) 雲溪荘の件について新しい組織ができたときているが、その後具体的にはどうなっているか。

(センター長) 任意団体であり、行政としてのつながりというか参加はしていない。このグループの県の事業が採択された時に報告として会合に参加し、こういった事業をやるという説明は聞いた。あくまで認識しているのは県の事業を使って雲溪荘に限らず武石地域の観光施設の振興策について事業として採択されたと聞いている。振興策として重なる部分もあるが別に行動して振興していくのであればその事業を進めていただければありがたい部分もある。基本的に行政としても積極的に協働してやっていくというようなまだそこまではしていない。

(会長) 会合に参加した際、個人的にグループの中から農作物を雲溪荘に使ってもらおう働きかけをしたがどうしたらよいかと相談を受けた。具体的な作物の販売計画的なものを作成して相談したらどうか提案した。いろいろな形で地域内の事業を活性化させることやっていただかないといけない。この地域協議会がどのように関わっていくかは別の問題。

(委員) 県の事業として正式に採択されたということか。上田市を通してということではなく、県直轄の事業なのか。

(センター長) そのとおり。県の事業を使っただけの採択。この事業は上田市内でもいくつかの団体が認定を受け実績もある。

(4) その他

第5回地域協議会の日程について

日時：令和3年8月18日(水)午後7時から

場所：武石地域総合センター 大会議室

4 閉会(金子副会長)

